

第41週の発生動向 (2004/10/4~2004/10/10)

- 1 麻しんについては、五所川原保健所管内で**注意報**が出されました。
- 2 感染性胃腸炎については、2週連続で増加傾向となっており、特にむつ保健所管内では報告数が多く注意が必要です。
- 3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、青森、弘前保健所管内での報告数が多いことから今後も注意が必要です。

第41週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															
(60) 咽頭結膜熱			1	0.10									1	0.02	±0
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	1.38	14	1.40	2	0.22			2	0.33	4	1.00	33	0.79	12
(62) 感染性胃腸炎	21	2.63	7	0.70	7	0.78	1	0.20	13	2.17	43	10.75	92	2.19	15
(63) 水痘	1	0.13			7	0.78	5	1.00	5	0.83			18	0.43	3
(64) 手足口病			2	0.20	7	0.78			28	4.67	1	0.25	38	0.90	5
(65) 伝染性紅斑	4	0.50	2	0.20	1	0.11			1	0.17			8	0.19	8
(66) 突発性発疹	1	0.13	7	0.70	7	0.78			5	0.83	5	1.25	25	0.60	1
(67) 百日咳															-1
(68) 風疹															-1
(69) ヘルパンギーナ	19	2.38	2	0.20	2	0.22	1	0.20			3	0.75	27	0.64	-14
(70) 麻しん(成人を除く)							3	0.60					3	0.07	3
(71) 流行性耳下腺炎	9	1.13	1	0.10	8	0.89			2	0.33			20	0.48	±0
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎					2	1.00	1	1.00					3	0.27	-1

	定点数			
	インフルエンザ	小児科	眼科	基幹
青森	13	8	2	1
弘前	15	10	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

インフルエンザ定点については、内科定点と小児科定点を合わせたものです。

は注意報、は警報です。「空欄」:患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (16年計には、今回届出された人数を含む)

- (59) R Sウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内:7人 合計7人 (16年計 55人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類定点把握疾患) 八戸保健所管内:6人 合計6人 (16年計 91人)

感染症の窓

急性脳炎

(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)

**最近の動向** 急性脳炎患者が2003年11月から2004年8月までに、全国で58人発生し、うち9人が死亡していたことが国立感染症研究所によって報告されました。原因病原体の内訳は、58名のうち原因不明が30例でした。ウイルス性ではヘルペスウイルス(13例)、**インフルエンザウイルス(5例)**、ムンプスウイルス(4例)等があります。細菌性には、結核菌、サルモネラ菌、ペニシリン耐性肺炎球菌がありました(図1,図2)。

**感染症法では** 急性脳炎は2003年11月の感染症法一部改正によって、五類感染症全数把握疾患に変更されました(すべての医師が報告しなければならない)。

インフルエンザウイルスの内訳

- AH3型: 2例
- A亜型別未施行: 2例
- 不明: 1例

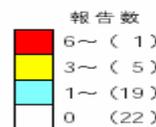


図2 急性脳炎の都道府県別報告数 (2003年11月~2004年8月, N=58)

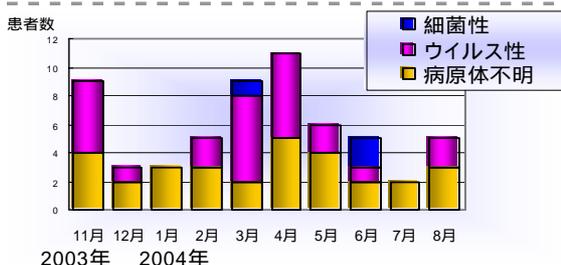


図1 急性脳炎の発症月・病原体別患者数 (2003年11月~2004年8月, N=58)